

# GO FLY

新北島中学校  
学年通信 No26  
2020.06.08. 発行



「ひょうへん」  
「豹 変」：ヒョウの毛が季節により美しく抜けかわって、そのもようが鮮やかになることから、態度や行動などが明らかに一変すること。



「明日からは、生まれかわったつもりで勉強する」・・・こどもがときどきそんなけなげな決心を口にするけれども、多くはもとのもくあみで終わる。本人の意志にも問題はあるが、まわりのせいもある。本気にしないのである。そのつもりはなくとも、足を引っぱる。友だちにしてみれば、仲間が急に生まれかわったようになられてはこまるのだ。つきあいにくくてしようがない。今までどおり仲よくしようや、となるのである。相当な決心もそれでへなへなとなってしまう。ただ、その決心をつらぬきやすいときがある。新学年をむかえた時期だ。

新しい学年は、ほのぼのと胸のふくらむ思いがするものだが、ぼんやり過ごしてはもったいない。すばらしい豹変のできる、年に一度の好機だからである。学年がかわればクラス替えがある。親しい友だちと離れなくてはならない。担任の先生も新しくなる。さみしい、いやだ、というが一時の感傷である。長い間おなじグループでいっしょにいると、おたがいの関係が固定する。親しさが増加するといったよいところもあるかわりに、のびのびとした変化がさまたげられやすい。せまいエスカレータに乗っているようなもので先がつかえる。



新しい学年のはじめのうちは階段をのぼるようなものでかなり自由になる。思いきってかけのぼろうとするならばこのときである。それはまたトランプの配りなおしのようなものもある。新しく、どんないい札がまわってくるかもしれない。さらにまた、転地（転居）に似ていなくもない。場所をかえると好転する病氣がある。環境の変化は心身によい影響をおよぼす。

新学年は変身の可能性を秘めている。新しい学校へ入ったのなら、なおさらのこと大きな飛躍が期待できる。春はルネッサンスの季節で、生まれかわることもけっして夢ではない。

とやましげひこ  
外山滋比古著 「学校で出来ること出来ないこと」 より